

令和3年度第3回嘉麻市立図書館協議会 会議録

1. 審議会等の名称 令和3年度第3回嘉麻市立図書館協議会
2. 開催日時 令和4年1月14日(木曜日)午前11時00分～11時47分
3. 開催場所 嘉麻市立碓井図書館 2階 集会室
4. 公開又は非公開の別 公開
5. 出席者
 - (1) 委員
 - ・下川和彦委員・中島暁子委員・坂口清春委員・近藤一崇委員・松尾正剛委員
 - ・北富真治委員・西田喜久代委員・松岡瞳子委員・春口香委員
 - (欠席)・・・坂本由美子委員
 - (2) 執行機関
生涯学習課
 - ・教育長 木本寛昭・課長 末永康洋・課長補佐(図書館長) 上野智裕・図書館係長 山本博子
 - ・図書館係 藤原千晶(図書司書)・図書館係 安藤かよ子(会計年度任用職員)
6. 傍聴人数 0人
7. 議題
 - (報告)
 - 1) 第3次嘉麻市子ども読書推進計画(案)について
 - 2) 令和4年度事業計画(案)について
 - 3) その他
8. 審議の内容
(会議録の確認者の決定) → 坂本委員に決定
 - 1) 第3次嘉麻市子ども読書推進計画(案)について・・・原案のとおり承認

資料に基づき、新しく追加した項目等を中心に事務局から補足説明を行った。また、資料送付後に各所からいただいた意見に基づき、計画案の修正点等を説明し、修正点を反映させた最終案を送付することとした。
 - (説明要点)
 - ・新しいトピックとして、GIGAスクール構想や読書バリアフリー法について追加記載している。また、各部署の連携について、今後、重要性が高まってくると考えられるため、引き続き、その部分の記述について各項目で触れさせていただいた。
 - (質疑)
 - ・GIGAスクールのことはどこに書いてあるか。

⇒24ページに記載している。

・アンケートと見比べた意見として、ブックスタート事業について嘉麻市は4カ月児健診のときに2冊配布されているが、5年ぐらい同じものが配られている。私に4人の子供がいますが3冊同じものが来た。その点は残念だと思う。出来れば毎年4月に配布する本を変えて欲しい。1年間通して同じものは良いが、6年生、4年生、1年生の子供が同じ本をもらっており、同じものをずっと配布することには疑問を感じる。このことはアンケートにもあった。読書推進を進めていくと掲げるのであれば、その点も検討してほしい。

⇒ブックスタート事業については、NPOブックスタートから割引価格で購入しており、2年に1度、絵本の更新を行い変更していたが、赤ちゃんのときから親しんで欲しいと思い選んだ定番絵本が重なった結果、同じ本が手元に届くことになったと思われる。アンケートの中でも、重なる絵本があるともったいないという意見もいただいております。また以前購入していた絵本が10種類20冊ずつ程度在庫もあることから、図書館内で協議した結果、4月以降は選択できるように2冊セットにして、ご自宅の本と被らないように配布することも検討している。事業の進め方はそのように変更させていただくが、計画の中では「第2章 成果と課題」の所で、「絵本のお渡しについては柔軟に対応できるように」と文章を追加させていただきたいと考えている。

・4ページに「うちどく事業」という項目があり、この会議で初めて知ったが、「うちどくノート」とはどのようなものか。

・「うちどくノート」とは手作りで、次の人に本の紹介していくノートだ。嘉穂図書館ではカウンターの司書おすすめ本の辺りに設置されている。数年前から始まっており、最初の三カ月ほどは特に積極的に声掛けされており、私も書いたことがある。「うちどく」に関連して、小学校では週末に宿題のひとつとして10分間読書というものが行われている。それを図書館と学校で連携して「うちどく」にしてはどうか。10分間読書として家で読んだ本について、おすすめの本はこれだよと紹介して図書館の事業と重ねれば、おうちの中でもできるのではないか。

・いつも図書館には行っているが、気付かなかった。いい取組だと思われるので、是非PRして欲しい。

⇒数年前に「うちどく行事」ということで開催していたが、周知が不十分な所があったと反省している。うちどくノートに関しても掲示物等を使って広くお知らせし、借りていただけるよう考えていく。

委員からも話していただいたように、嘉穂小学校では「うちどく」とは違う名前でも家庭での読書を進められているが、下山田小学校では「うちどく」ということで取組みされている等、学校によって取組の名称が違っている。今後も学校との連携を進めていきたいと考えており、図書館でできるPRを進めていきたい。計画案については22ページ「学校との連携」に記載させて頂いており、計画においては現在の記載のまま進めていきたいと考えている。実務的に進めていく際、学校図書館

と公共図書館との連携の場で、この話題にもふれていき、嘉麻市での「うちどく」が広まるように努めていきたいと考えている。

・10ページに「読書手帳のメリットを積極的にPRし、活用を促す必要があります。」と記載されているが、あまり積極的にPRを受けた覚えがないが、現場ではどうか。
⇒カウンターでは、新規カード登録時にご案内させていただいている。また、ブックスタート事業のときや、市内小学校一年生には全員に配布させていただいている。今後カウンターでの声掛け等について図書館内で確認していきたい。

・嘉麻市立図書館の読書手帳は貸出したらシールが出るものだが、よそでは読書通帳というものがある。通帳のように機械に入れると借りた本のタイトルとページ数を印字してくれる。どこかの自治体で見たものだが、導入するには結構金額がかかるということだった。子どもたちは、きっかけがなければ動かない。その子どもたちも、読書通帳ができて、読んだページ数がお金のように貯まっていくことをおもしろがってたくさん本を読むようになったようだ。

嘉麻市の独自のもので「かまししちゃんアプリ」と連携して、本の裏のバーコードをスマホアプリで読むとなにかできる等図書館でも事業が出来たら、子どもたちも楽しくなって本を読むのではないかと思う。

⇒通帳タイプは予算の問題があり、シールタイプの読書手帳を導入している。今後、PRも進めていくが、図書館システム更新の際、アプリも含め検討の材料としていければと思う。図書館システムは昨年更新したばかりで、早くても5年後にはなるが、事前にアプリの連携について打診することで、システム会社からも提案していただける可能性も考えられることから、システム会社との協議のなかで話ができればと思っている。

現在のシステムの中でも「読書マラソン」というものがある。かまししちゃんアプリではなく、NECのシステムを活用したものだが、図書館で読んだ履歴が残っていくというものである。図書館のホームページの中で登録して頂いる方で、ログイン後に、読んだ本を記録する、しないを選択するところがあり、「記録する」を選択していただくことで利用できるようになる。

・機能があるのに知られていないのはもったいない。

・明らかになった課題は「あるのに使われていない」ということ。

読書履歴の取扱いについては、別の意味でもとても大事な問題であり、軽々しくすべきことではないが、少なくとも自ら選択してマイページの世界で管理するということがシステムに入っており、自分の履歴は管理できるということか。

⇒選択できるということであり、希望される方もおられるなら、と思っている。

・この計画を読んでいると、アンケートに結びついてくる。子どものアンケート結果しか出ていないが、最近本を読む子どもが減っているという結果になっている。その理由のところ、家庭の中での本を読む親の姿を見せるのがいい、乳幼児からの読み聞かせが大切など分析されているが、それに対して具体的にどうするのかというところ

ろでは、ほとんどが指定管理と協議と書いてある。こんな状態で指定管理業者がどこまで子どもの読書意欲を高めるために動いてくださるのか。益々低下してくるのではないか、心配になった。

また、個人的意見だが、私たちは朝読や読み聞かせに行っているが、5年生のアンケートの結果を見ても、読み聞かせで本のおもしろさと知ったという回答が一人もない。大変がっかりしたが、読み聞かせのときの子どもの反応のみを見ており、その結果何を考えたのかということまでは追跡できていない。そういう機会もないし、時間もない。そのときだけ良ければ良いのか、アンケートを見ながら暗澹たる思いでいた。スマホや電子書籍がでてきて、本に触れる機会が少なくなったから、子どもが本を読まなくなったのか、家庭環境の在り方なのか、アンケートの結果でいろいろと考えさせられた。

⇒委員の皆様からのご指摘を総括すると「やっているのに知らない」「周知不足」ということだと思う。アイデアを出し続けてやってきているが、やり方に工夫が必要なのかなと感じている。また、委員がおっしゃるとおり、追跡や分析ができていない。スマホの普及等いろいろ原因は考えられるが、本に興味をわくようなアイデア等、今後指定管理者からも提案していただき、この会議にも参加いただき直接運営側に意見を届けることで一層改善が図れると考えている。この計画は細かな事業計画まで策定するものではなく、今後の指標となる目標値を出していく計画になっている。細かな部分は年度ごとの事業計画等に反映させていく。本日いただいたご意見は真摯に受け止めて、今後は指定管理者側と充分協議をし、一層子どもたちの読書が推進できるように努力をしていきたいと考えている。抽象的な言い方にはなるが、今より確実に良くなると我々も思っているので、今後共ご協力をお願いしたい。

2) 令和4年度事業計画(案)について・・・原案のとおり承認

資料(令和4年度事業計画(案))に基づき補足説明を行った。

(説明要点)

・令和4年度から指定管理者制度を導入することから開催行事の詳細はまだ決定しておらず、4年度の事業については今後協議していくこととしている。

(質疑)

・休館日はどう考えているか。

⇒仕様書の中では、以前のとおり週一日月曜日のみ休館、月曜日が祝日の場合は開館し、翌日が休館という以前の形をお願いしている。

・その分で予算が計上されるということか。

⇒その分で予算計上している。

令和2年度から会計年度任用職員という制度が始まり、事業縮小や開館日数を減らさなければならない物理的要因が発生したが、こうしたことの改善のための大きな手段として指定管理者制度に移行した。従って、先ほどの質問のとおり、開館時間等については条例どおりに戻していき、事業についても、嘉麻市の方針であるアクションプランや教育振興基本計画にのっている事業について、31年度をベース

